

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

- 生涯にわたり学習する基盤を培い、自らの個性を生かしながら主体的に課題を解決する力を育み、生徒の可能性を伸長する学校をめざす。
- 急速に変化する社会に対応できる確かな学力を育成し、思考力・判断力・表現力を高める機会を与えることで、個性を伸ばす教育の充実を図る。
  - 自ら将来の夢と志を描き、自己の可能性を伸ばすとともに、自らの力で進路を実現し、地域や社会に貢献できる人材の育成をめざす。
  - 生徒が安全で安心して高校生活を送れるよう、それぞれの思いや環境・状況の違いを理解し、自他の生命や権利を大切にす意識の醸成に努める。

### 2 中期的目標

- 総合学科の完成年度を迎え、「部活動の盛んな進学をめざす総合学科づくり」を目標に、以下の5点を学校の中期的目標とする。
- 思考力・判断力・表現力など確かな学力を育成するため、教員の授業力向上を図る。
    - 授業力向上委員会が中心となって、「学校全体でめざす授業」を明確化し、「主体的で対話的な深い学び」を実践するため、アクティブラーニングやユニバーサルデザインの授業に関する情報を共有し活用する。
    - HR 教室の電子黒板機能付プロジェクタやアクティブラーニングルームを有効に活用して、学校全体で ICT 機器を活用したアクティブラーニングやユニバーサルデザインの授業実践をすすめる。  
(学校経営推進費 H30 「なぎさスマイルプロジェクト～授業に笑顔を～」 電子黒板機能付き超短焦点プロジェクタ 18 教室 3,402,000 円)
    - 授業アンケートを有効に活用するとともに、研究授業や教員同士の授業観察等の活性化を図る。  
※生徒向け学校教育自己診断「楽しくて、わかりやすい授業が多い」を毎年3%引き上げて、令和4年度には70%以上にす。  
(H30 67.2%、R1 63.3%、R2 度63.5%)
  - 夢や希望の実現に向かって主体的に学び努力するキャリアデザイン力を育成するため、さらなる進路指導の充実を図る。
    - キャリアサポートルームを有効に活用して、「10年後の自分」を考えさせる。
    - アクティブラーニングルームを有効に活用して「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」、LHR 等で系統的なキャリア教育を実践し、本物や最先端に触れさせる。
    - 学校設定教科・科目「軌跡」「深学」を活用するとともに、進学講習を組織的に行う体制を充実させ、生徒の希望する進路の実現をめざす。  
※進路希望実現率90%以上を維持する。(H30 88.5%、R1 93.1%、R2 92.1%)  
※難関大学(関関同立・産近甲龍)の合格者を令和5年度には20名以上をめざす。(H30 5名、R1 4名、R2 6名)
  - 基本的な生活習慣を確立させ、社会人基礎力(前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力)を育成するため、生徒指導の徹底と生徒の自主性の伸長を図る。
    - 基本的な生活習慣やマナー指導について、生徒指導部、学年、進路指導部が一体となって取り組む。
    - 自分の考えを他者に伝え表現するコミュニケーション力を育成するため、HR や委員会・生徒会、学校行事のさらなる活性化を図る。
    - 部活動への参加を奨励して、目標に向かって努力することの大切さを学ばせる。
    - 地域連携の一層の充実を図り、自主的・積極的に社会に参画する意識を醸成する。  
※年間遅刻者数を毎年5%ずつ減少させ、令和5年度には1000以下にする。(H30 1631、R1 1273、R2 1226)  
※生徒向け学校教育自己診断「学校生活は充実している」を令和5年度には90%以上にす。  
(平成30年度86.4%、令和元年度86.4%、令和2年度86.2%)  
※部活動加入率を毎年2%ずつ引き上げて、令和5年度には65%以上にす。(H30 55.2%、R1 60.1%、R2 61.7%)
  - 多様な考え方や立場を理解し、他者と協力・協働する社会形成能力を育成するため、人権教育や特別支援教育のさらなる充実を図る。
    - SNS などの新たな状況にも対応した高校3年間を通した人権教育を推進する。
    - 特別支援教育に関しては、高等学校支援教育力充実事業のサポート校としての取組みを充実させる。
    - 生活看護実習室を活用して、知的障がい生徒自立支援コース設置校として取り組んできたユニバーサルデザインの授業実践をあらゆる教育活動に広げていく。  
※生徒向け学校教育自己診断「学校では人権の大切さについて学ぶ機会が多い」を毎年2%引き上げて、令和5年度には85%以上にす。  
(H30 度82.9%、R1 79.6%、R2 75.9%)
  - 魅力ある総合学科づくりに全教職員で取り組み、「部活動の盛んな進学をめざす総合学科」を地域に定着させていく。
    - 高大連携を進めるとともに、特色ある教育課程の編制を行うなど、カリキュラム・マネジメントに力を入れる。
    - 中高連携をさらに進めるなど、広報活動を活性化させる。
    - 全校一斉退庁日やノークラブデーの明確化により教職員の時間外勤務の削減を図るなど、働き方改革に取り組んでいく。

#### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
確かな学力育成のための教員の授業力の向上	<p>(1) 授業力向上委員会を中心として、「めざす授業の全体化」を図り、授業の「なぎさスタンダード」を確立する。</p> <p>(2) 学校経営推進費を活用して設置したHR教室の電子黒板機能付プロジェクタの活用</p> <p>(3) 研究授業や教員同士の授業観察の活性化</p>	<p>(1)</p> <p>ア 授業力向上委員会及びオンライン授業検討委員会を計画的に開催し、授業の質の向上と学習機会の保障に取り組むとともに、アクティブラーニングやユニバーサルデザイン等に関する情報を共有し、授業の「なぎさスタンダード」を確立する。</p> <p>イ 授業力向上に向けた校内研修を企画し、教員間で「めざす授業」の共有化を図るとともに、「楽しくわかりやすい授業」を実践して生徒の学習習慣の定着を図る。</p> <p>(2) モデル授業者や各教科代表者による ICT 機器を活用した研究授業と研究協議を実践する。</p> <p>(3)</p> <p>ア 授業アンケートの振り返りシートを全教員が作成する。</p> <p>イ 全体の研究授業を年間3回以上行うとともに、授業観察シートを全教員が作成する。</p> <p>ウ 近隣中学校との授業交流を活性化する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 「<input checked="" type="checkbox"/>」いろいろ工夫されている授業が多い」前年度比2%増加 [71.9%]</p> <p>・授業の手法や構成について研究・研修を進め、「なぎさスタンダード」を明確にする。</p> <p>・オンラインによる生徒と教員との授業課題（宿題等）のやりとりの日常化を試みる。</p> <p>・「<input checked="" type="checkbox"/>」授業以外での学習時間は1日1時間以上である」前年度比2%増加 [27.1%]</p> <p>イ 「<input checked="" type="checkbox"/>」楽しくて、わかりやすい授業が多い」前年度比2%増加 [63.5%]</p> <p>・授業力向上を目的とした教職員研修を実施する。</p> <p>(2) 少なくとも前年度と同様の回数の ICT 機器活用に関する教職員研修を実施する。[6回]</p> <p>(3)</p> <p>ア 授業アンケートの学校全体の平均値前年度より上昇 [3.33]</p> <p>イ 全体の研究授業3回以上 [1回]</p> <p>ウ 近隣中学校との授業交流参加人数の一昨年度以上の増加 [30人] ※感染症拡大防止のため R02 は実施していない。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> は生徒向け学校教育自己診断
キャリアデザイン力育成のための進路指導の充実	<p>(1) アクティブラーニンググループやキャリアサポートルームを有効活用したキャリア教育の実践</p> <p>(2) 進路実現に向けた本物・最先端に触れる活動の充実</p> <p>(3) 進学講習の充実による希望する進路の実現</p>	<p>(1)</p> <p>ア 進学説明会をアクティブラーニンググループやキャリアサポートルームで開催するなど、進路指導やHRで有効に活用する。</p> <p>イ 3年間トータルの系統的なキャリア教育の策定</p> <p>(2)</p> <p>ア 「産業社会と人間」及び「総合的な探究の時間」、LHR 等を通じて、「卒業生に聞く」「TRYOUT」等の進路実現に向けた活動を充実させる。</p> <p>イ 新たな大学連携先を開拓するとともに、アカデミックインターンシップを実施する。</p> <p>ウ 英検等、各種検定の受験、資格取得の促進</p> <p>(3)</p> <p>ア 学校設定教科・科目「軌跡」及び「深学」を工夫・改善するとともに、組織的、体系的な進学講習体制づくりを行う。</p> <p>イ 一つ上の高みをめざす進路選定を勧奨しつつ、生徒の進路希望の実現を支援する。</p>	<p>(1)</p> <p>アイ ・進路希望実現率の前年度比2%増加 [92.1%]</p> <p>(2)</p> <p>ア 「<input checked="" type="checkbox"/>」進路実現に関する指導は適切に行われている」前年度比2%増加 [86.5%]</p> <p>イ 大学との連携活動回数の一昨年度比5%増加 [95回] ※感染症拡大防止のため R02 は実施していない。</p> <p>ウ 各種検定、資格取得者数の昨年度以上の増加 [50名]</p> <p>(3)</p> <p>ア 「<input checked="" type="checkbox"/>」学校は授業以外でも学習する機会（講習会・検定など）を提供している」前年度比2%増加 [67.1%]</p> <p>イ 難関大学（関関同立・産近甲龍）の合格の前年度比20%増加 [6名]</p>	

## 府立枚方なぎさ高等学校

<p>社会人基礎力育成のための生徒指導の徹底と生徒の自主性の伸長</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立とマナー指導の徹底</p> <p>(2) リーダーの養成及びHRや委員会・生徒会、学校行事の更なる活性化</p> <p>(3) 部活動の活性化</p> <p>(4) 地域連携のさらなる充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア 遅刻指導や頭髪・服装指導などを粘り強く行い、基本的な生活習慣を定着させる。</p> <p>イ 学年連携会議等で、生徒指導や行事活動などの学年間の調整を図る。</p> <p>(2) リーダー研修を実施し、生徒会が中心となって、体育祭や文化祭などの行事活動を活性化させる。</p> <p>(3) 部活動紹介や体験入部の方法を工夫することにより、入学時の入部率を上げ、部活動の活性化を図る。</p> <p>(4) 防災訓練や土曜講座など、保護者や近隣の小中学校、磯島地区コミュニティ協議会とのさらなる連携をすすめる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 年間遅刻者数の前年度比5%以上減少 [1226]</p> <p>イ 「学校生活についての先生の指導は納得できる」前年度比2%増加 [64.9%]</p> <p>(2)</p> <p>・「学校行事やHR活動には皆が楽しく参加している」前年度比2%増加 [80.7%]</p> <p>・生徒会及び部活動員を対象としたリーダー研修を実施する。</p> <p>(3) 部活動加入率の前年度比2%増加 [61.7%]</p> <p>(4) 地域活動参加回数の一昨年度比5%増加 [36件] ※感染症拡大防止のためR02は実施していない。</p>	
<p>社会人形成能力を育成するための人権教育や特別支援教育の充実</p>	<p>(1) 高校3年間を通じた人権教育の推進</p> <p>(2) 高等学校支援教育力充実事業のサポート校としての取組みの充実</p> <p>(3) ユニバーサルデザインの授業実践の活性化</p>	<p>(1)</p> <p>ア 入学年次の「産業社会と人間」を人権教育の視点で組み立てるなど、SNS等の今日的課題に対応した3年間トータルの人権教育を行う。</p> <p>イ アンケート等により把握したいじめなどの事象に迅速に対応する。</p> <p>(2) 生活看護実習室を活用して、インクルーシブ教育をさらに進めるとともに、支援教育サポート校としての取組みを充実させる。</p> <p>(3) 生活看護実習室を活用して、ユニバーサルデザインの授業実践に取り組み、「共に学び共に育つ」教育活動をさらに推進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 「学校では人権の大切さについて学ぶ機会が多い」前年度比2%増加 [75.9%]</p> <p>イ 「学校は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」前年度比2%増加 [78.0%]</p> <p>(2) 訪問・来校相談、研修・講演回数の前年度比5%増加 [訪問・来校(電話)相談21件、研修・講演7回]</p> <p>(3)</p> <p>・「この学校の生徒たちの関係はとてもよい」前年度比2%増加 [77.1%]</p> <p>・授業の手法や構成について研究・研修を進め、「なぎさスタンダード」を明確にする。</p> <p>・授業力向上を目的とした教職員研修を実施する。</p>	
<p>魅力ある総合学科づくり</p>	<p>(1) 特色ある教育課程の編成を行うなど、カリキュラム・マネジメントに力を入れる。</p> <p>(2) 「魅力ある総合学科」を作って、情報発信するなど、広報活動に力を入れる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 再編PTや教職員研修で、教育課程について議論をし、5つの系列を魅力あるものにする。</p> <p>イ 新学習指導要領の実施に向けて、議論を行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア 中学校訪問など中学校との連携を活発に行うとともに、中学校教員や保護者向け学校説明会を新たに実施するなど、広報活動に力を入れる。</p> <p>イ PTA等と協力して、保護者に学校行事に積極的に参加してもらうなど、保護者との信頼・協力関係をさらに進める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 新教育課程の編成に向けて、再編PTを特化した学校課題別に組織し直し、研究を進める。</p> <p>イ 新学習指導要領、とりわけ、観点別評価に関する教職員研修を企画する。</p> <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校説明会の実施形態と内容、開催時期、回数の工夫</li> <li>・令和3年度入試以降の志願倍率1.1倍以上を維持する [1.11倍]</li> </ul> <p>イ 保護者向け学校教育自己診断の提出率の向上 [78.0%]</p>	

## 府立枚方なぎさ高等学校

	(3) 全校一斉退庁日やノークラブデーの明確化により教職員の時間外勤務の削減を図る。	(3) 業務の平準化を進めるとともに、全校一斉退庁日やノークラブデーの明確化により、教職員の時間外勤務の削減をめざす。	(3) 教職員の一人当たり時間外勤務時間数の前年度比3%削減 [約32時間]	
--	--	---	---	--